2019年度　特別活動実践・研究計画

部員	○鈴木　聡，小松田ひかり，渡部誠一郎，石井史知，村上宙思，藤田　崚

研究テーマ
仲間との関わりを主体的に求め，学校生活の充実と向上を目指す子どもを育む学び
～よりよい人間関係を形成する学級活動を通して～

1　研究テーマについて

昨年度の６年Ａ組の実践「後期の学校生活のめあてを考え，実践しよう」では，司会グループへの事前の支援や学級会カードの活用などを通して，よりよい合意形成を目指す話合い活動が展開された。また，問題意識を共有化するための手立てとして，題材構成を工夫し，自己の内面を見つめる場を複数回設定するなどの試みが効果的であった。その一方で，選択肢から選ぶことに終始せず，実践につながるより具体的な話合いである「工夫考案型」の学習活動の過程の充実を図るという点では課題が残った。例えば「お試しの場」やプレゼンテーションの場を設定するなど，自主的・実践的に課題解決に取り組んでいくことのできる過程を工夫する必要があると考える。

そこで，昨年度の研究テーマを継続し，今年度も研究を推進していく。

「仲間との関わりを主体的に求め，学校生活の充実と向上を目指す」ことは，集団活動を基盤として自主的・実践的な活動を繰り返し経験することで，互いのよさや可能性を認め，活かし，伸ばし合うことの有用性を実感することであると考える。ここから，特別活動における「自律した学習者」を，「課題を解決するための話合い活動を通してよりよい人間関係を形成しようとする」姿であると捉えた。また，「学びをつなぐ」を，身に付けた資質・能力を集団や自己の生活をよりよくするために活用しようとし，能動的に学び続けようとする姿と捉える。

「よりよい人間関係を形成する」とは，議題の解決に向け実践を通して子どもたちが感じるであろう仲間と話し合うことのよさ，自分たちで活動を進める楽しさ，協力して活動を成功させる喜び等を味わうことによって，子どもたち同士が集団の中で認め合い高め合うことと考える。そのような望ましい集団活動を通して，自分たちを取り巻く諸問題を解決しながらよりよい人間関係や学級・学校生活を形成していく力を培うことは，今後，社会の中で生きていく子どもたちに求められている資質・能力を高めることにつながるであろう。

そのために特に大事にしたいのが，話合い活動である。学級活動においては，学級・学校における生活上の課題を解決するためには，子どもが見いだした課題について，一人一人の思いや願いを意見として出し合い，互いの意見の違いや多様な考えがあることを大切にしながら，学級としての考えや取り組むことについて合意形成して決定することが必要である。また，合意形成したことについて，必要な役割や仕事を決めたり，それらを全員で分担したりするとともに，協力してやり遂げることが求められる。そのためには，学級や学校の形成者としての「見方・考え方」を働かせる必要がある。子どもが互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決し，よりよく成長し合えるような集団活動を，学級や学校の形成者としての「見方・考え方」を働かせながら展開することを通して，資質・能力を育むことが大切だと考える。

そこで，特別活動における「学びをつなぎ資質・能力を高めている子どもの姿」を，次のように設定する。

> 話合い活動において他者の意見について共感的かつ建設的に関わり，学級や学校の形成者としての「見方・考え方」を働かせながら，自分たちの生活がよりよくなるような考えを主体的・協働的に導き出そうとする姿

２　研究の重点

よりよい合意形成を図るための話合い活動の工夫

質の高い深い学びを実現するためには，特別活動の特質に応じた物事を捉える「見方・考え方」を働かせることが求められる。そして，「話合いの資質・能力表」をもとに司会グループ・参会者がそれぞれの役割を理解し合い，互いに協力しながら話合いを進めていけるよう，学級会カードの活用を図る。

解決方法について話し合ったり，解決方法を決定したりする際には，共通点や相違点を確認したり，分類したり，共通の視点をもって比べ合ったりしながら話し合う過程を大切にしていく。特に，比べ合う過程において，「お試しの活動」やプレゼンテーションの場を位置付ける。

話合い活動において話し合う目的や話合いの視点などを明確にしながら集団で思考し，合意形成を図ることによって，子ども自身が学級や学校の形成者としての「見方・考え方」の有効性に気付き，自覚的に活用できると考える。

そのためにも，子ども自身が問題意識や必要感をもちながら話合いを重ね，よりよい考えを協働的に導き出すことにつながるよう，問題意識の共有化を図る。また，話合いの進め方，合意形成の図り方，協力して実践したことによる自他の変容などをふり返る活動を通して成果や課題を確認する。このように，一連の実践の成果や課題をふり返る活動を大切にすることで，成長を実感したり，次の課題解決に生かしたりすることができるようにする。こうした学習の積み重ねによって，個の力の高まりと集団としての質の向上が相互に作用し合い，次の活動への意欲につながっていくことを目指す。

学級会においては，子どもの考えの変容や，話合いの資質・能力がいかに高まっているかを見取ることが肝要である。そのために教師は，子どもたちの発言の意図を汲み取りながら聴き，よい発言を価値付け，即時評価を積み重ねていく。このような教師の姿勢が，子どもたちの自己評価力，相互評価力，そしてよりよい合意形成ができた達成感や自己有用感を味わいながら活動を推進していく姿につながるものと考える。

３　研究・研修計画

時　期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
１学期	・特別活動部会 ・附属小学校公開研究協議会（6／7） 提案授業　福田：３Ｂ	・実践・研究計画の確認 ・授業づくり，授業力向上 ・授業を通して重点事項の検証
２学期	・研究パンフレット執筆 ・附属中学校秋季授業研究会 ・特別活動部会	・小中連携，共同実践研究 ・附属中特活部への研究協力
３学期	・特別活動部会	・実践・研究計画の立案

通年：年間指導計画及び資質・能力表の加除・修正